

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600891		
法人名	株式会社無限倶楽部		
事業所名	グループホーム幸福の里あすか		
所在地	苫小牧市字錦岡647番地14		
自己評価作成日	令和3年3月30日	評価結果市町村受理日	令和3年7月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=0173600891-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=0173600891-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和3年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケア理念に沿って、日々一人ひとりの入居者様と向き合いながら、ホームでの生活がご本人にとって安心できる場所であり、安らぎ、楽しみを感じて頂けるよう支援に努めています。立地的に商店、住宅地から離れていますが、近隣の小学校や町内会との交流を重ね協力し合える関係性が築けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR駅から徒歩圏内に位置するグループホーム幸福の里あすかは、地域に根ざし16年目を迎える2ユニットの事業所です。晴天には青い海と樺前山が望める恵まれた環境で、巣籠り期間中は利用者の癒しとなっています。今年度はコロナ禍で外部との交流を中止せざるを得ない環境の中、職員は屋内で楽しめる花見会、節分、雑祭り、バレンタイン、クリスマス、新年会などの季節行事を充実させ、特に食事やおやつには力を注ぎ、利用者を飽かさず満足感が味わえる支援に取り組んでいます。畑の水遣りや家事手伝いの役割に加え、毎日のレクにも、利用者の趣味を活かした編み物、折り紙、ぬり絵、オセロゲーム、体操など取り入れるなど、職員は理念に沿って一人ひとりの主体性を尊重した自分らしい生活を支援するケアに取り組んでいます。利用者の思いの把握では、日常の会話や職員の気付きや工夫を具体的に記録に残しており、評価や今後の課題に繋げ介護計画の見直しを行っています。訪問診療体制が整備し、現在も終末期介護支援に取り組んでいます。既に看取りも経験しており利用者、家族の支えとなり、最期までその人らしい暮らしを営めるよう援助しています。地域との交流や外出の機会が閉ざされ、利用者も職員も我慢の日が続いている現状で、収束後は白老へのドライブなどを予定しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は共有できるようにフロア内に掲示し日々の支援の中で心掛けて実践につながるよう努めている。	利用者が主体の5項目からなる「あすかの理念」を共用空間に掲示し、サービス提供の軸として共有しています。理念の意識付けは、新人研修を始め、カンファレンス、介護計画作成時などに行い、実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度に関してはコロナ禍ということもあり、交流する機会がない状態が続いている。	コロナ禍で地域交流は中断しています。通常は町内の敬老会や事業所のあすか祭りなど、相互の行事で交流しています。また、小学校の学習会の受け入れ、各種ボランティア訪問で、利用者は程良い刺激を受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市からの要請を受け、事業所の認知症サポーターキャラバンメイトが、小学生や一般向けのキッズサポーター及び認知症サポーターの養成講座を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実況、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者から出た意見などは、サービス向上のため反映していくよう努めているが、今年度はコロナ禍だったため集まったの会議は1回のみで、あとは資料を配布するのみに終わっている。	今年度の運営推進会議は昨年9月の開催以外、全て書面会議で行っています。利用者の状況、運営や活動内容を書面で報告し、参加メンバー及び家族に配布し現状の理解に繋がっています。9月の開催時には、避難訓練を実施しています。	会議への家族の理解と継続的な参加要請に期待します。また、会議録に参加者の立場や所属先などを記録することや、事故報告、ヒヤリハット、外部評価結果など、サービス実施と状況の開示に努め、透明性を図ることで更なる意見や提案の引き出しの工夫と議事録の整備に期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	通知に対しての問い合わせや、書類提出時などに話を聞かせて頂き関係構築に努めている。	行政との関わりは、法人職員と管理者が担い、情報の共有や課題解決の協議を行っています。市の要請で管理者が認知症サポーター講座の講師として貢献しています。運営推進会議や実地指導等では、担当者に事業所の現状を伝え、助言や指導を仰ぎ、協力関係を構築しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度カンファレンスの中で身体拘束についての勉強会を行い、理解を深め日々のケアに努めている。	指針を整備し、身体拘束適正委員会を設け、カンファレンス内にて定期的開催し、内部研修も同時に行っています。事例集を活用し、拘束や虐待の具体例とその弊害について学びを深め、職員間でも注意を促し、適切なケアに繋がっています。センサー使用時は家族の了解を得ています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い防止に努めている	定期的な勉強会で資料を配布し、知識の向上を図り、日々の支援でも防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修は中止になり、内部で学ぶ機会も持っていないが、成年後見制度を使い補佐して頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談や、契約時に説明し同意を得ている。疑問等がある場合はその都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や毎月の手紙の中で近況を報告し、意見や要望がある場合はお聞きし、反映できるよう努めている。	現在も感染予防のため面会は叶いませんが、家族の安心に繋がる様に、インターネットでビデオ通話の活用を促しています。毎月発行の事業所便りや担当職員からの手紙で、利用者の様子を報告しています。家族とは、電話や手紙で意見を傾聴するなど、意思疎通に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	かしまって意見を聞く場を設けてはいたいが、何かあれば、その都度意見等は聞くようにしている。	管理者と職員とのコミュニケーションは、月1回のカンファレンスや日常業務内にて、職員の意見や提案を傾聴し、ケアサービスの向上や就業環境の整備に努めています。個人的相談も都度受け、シフトの要望にも柔軟に対応しています。職員は防災や身体拘束など各分野を担当し、提案等を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社としては研修参加や資格取得のための支援の整備はされているが、人員不足の問題があり、常に環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はコロナ禍のため中止になっている。日々のケアの実践の中で、その都度介護技術や認知症に対する考え方は伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍のため現在は交流はしていないが、終息した時には以前のように交流を再開していきたい。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェースシートの情報を基に、本人の情報を整理し、本人の話を傾聴しながら良い関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会を自粛して頂いているため直接話を伺う機会は少ないが、電話でお聞きし情報交換等を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェースシートや、面談時の本人や家族からの情報を基にケアプランを作成し、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で、会話であったり作業をしていく事で、お互いが大切だと思える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている関係を築いている	現在はコロナ禍で面会も自粛しているが、定期的に近況報告を行い、連絡する際にはできる範囲での協力をお願いし、関係を保持している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため外部の方との関係はなく、支援も難しくなっている。	外出や面会を自粛しており、全ての交流が中断していますが、訪問理美容を再開し、美容師である代表との会話や久しぶりにヘアスタイルを整え気分転換が図られています。家族や職員の支援で馴染みの医師への受診を行っています。利用者は知人との文通やテレビ電話を通して家族との絆を深めています。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係性を尊重しながら、時には間に入り、お互いが思い合えるような支援を行えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡による退居が多いため、連絡を取り合うこととはないが、相談など頂いた時はそれに対応するように努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話中の言動や行動等をアセスメントし、カンファレンスにて話し合い、検討し、寄り添うように努めている。	利用者とは1対1の入浴の機会を活かし意向を傾聴したり、日常の言動から、食事の準備や片付け、畑の水遣りなどの役割作りなど、利用者の意思を尊重する支援に努めています。意思疎通が困難な場合は、寄り添いの中で得られた情報をカンファレンスで共有し、利用者の根底にある思いの把握に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートや家族からの情報をスタッフ間で共有し、いつでも確認できるようにして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はアセスメントシートに記載し、申し送りや連絡ノートなどで情報共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスの中で、各自が行ったモニタリングについて話し合い、ケアプランの見直しや更新を行っている。	介護計画は利用者や家族の生活に対する意向や医療関係者の所見を基に担当職員、管理者、計画作成者が課題分析や評価を行い原案を作成し、カンファレンスで話し合い、3ヵ月毎に見直しています。計画書は利用者や家族に説明し同意を得ています。変化時は随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や申し送りだけではなく、連絡ノートや訪看等の記録も活用し、確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍のため外出支援等はしていないが、その都度必要な通院等の支援を行い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度に関しては、コロナのため地域資源の活用はできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供を行い、月に1度の定期往診と在総診で診て頂き、必要に応じ訪看に間に入ってもらい支援に努めている。	利用者の殆どが24時間対応の協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の訪問、緊急時、重篤時に診療を受けています。他の医療機関への受診は家族や職員が支援しています。週1回の訪問看護師も24時間連絡体制が整い、日常的な健康管理や受診経過の把握、医師と職員との連携を図っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度定期訪問時に情報提供し、アドバイスを頂いている。24時間の連絡体制で何かある時はその都度連絡し、助言・指示を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や家族と相談し、情報交換し備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し同意書にサインを頂いている。家族だけでなく、かかりつけ医や訪看とも話し合い連携している。	事業所は看取りを経験しており、利用者の終の住処として終末期支援に取り組んでいます。入居時に重度化対応・終末期ケア対応指針を説明し、同意を得ており、重篤時には再度看取りの意思を確認し、改めて同意書を交わし、医師、訪問看護師、家族、職員とで方針を共有し、チームケアで臨んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	家族に急変時の確認書を書面でもらっている。応急等については訪看に連絡し、指示を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、消防の立ち合いや地域の方々にも参加を頂き、助言等協力して頂いている。	今年度の避難訓練は9月の運営推進会議内でメンバーの参加を得て行ない、3月は自主訓練にて、昼想定火災避難訓練を実施しています。災害用備蓄品の飲料水・食料品は賞味期限をチェックし、随時準備に努めています。非常災害時連絡リストに地域住民も加わり連携を図っています。	近年、想定外の自然災害が発生していることから、最新のハザードマップで現状を把握し、自然災害訓練のシミュレーション及び避難訓練の実施と夜間想定及び様々なケア場面を想定した避難訓練を重ねる事を期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のことをしっかりと理解し、傷つけないようなその方に合わせた言葉掛けを行うように心掛けている。	身体拘束適正委員会やマナー研修等で、正しい接遇のあり方を学び、実践に努めています。入浴や排泄時は同性介助の要望を叶え、オムツ交換時には羞恥心と尊厳を重視した対応に努めています。利用者の呼称は、利用者や家族の要望に沿って声掛けしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話しやすくなるような環境を整えたり、関係作りをし、声掛けも思いを引き出せるような掛け方を工夫し、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	時間帯等によっては業務を優先してしまう場面もあるが、一人ひとりの状態に合わせて寄り添う支援をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を活用したり、服装も季節感を考慮しながら自己決定できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に希望を聞いてメニューを変更したり、誕生日や行事の際は好みのものを用意している。準備や片付けも一緒に行っている。	献立と食材は外部委託し、1汁3菜を基本にした日常食と、行事食は特別メニューから選んでいます。時には献立をアレンジして趣向を凝らし工夫しています。誕生日には利用者の要望に応え、全員で食卓を囲み祝っています。畑の野菜も取り入れ、旬の食材を活用した松茸ご飯、石狩汁、海鮮焼を楽しみ、利用者も力量に応じて家事に参加しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や形態は個々に合わせて提供しています。食事量や水分は記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声掛けを行い、介助が必要な方には口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の仕草や排尿間隔を見て誘導し、トイレでの排泄を促している。	トイレは各ユニットに4カ所あり、混み合う時間でもゆっくり使用できます。排泄が自立している利用者が半数で、排泄の間隔や生活習慣を共有し、さり気ない声掛け、誘導、見守りで失敗ないように支援しています。羞恥心への配慮に努め、同性介助、二人介助に対応し、衛生用品は状況や時間帯で検討し、安心や快適さに繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取やオリーブオイルを飲用し、自然排便を促しながら下剤も併用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人の希望に沿って午前から入れるように対応。入らない日が続く場合は清拭なども行っている。	入浴の目安は週1～2回とし、生活習慣や希望に合わせた入浴方法で、湯船に浸かる、シャワー浴、足浴や清拭も取り入れ衛生保持に努めています。二人介助、同性介助に対応し、拒む場合は人やタイミングを替えて工夫しています。入浴剤や好みの入浴グッズ、湯加減の調整など寛ぎの時間を支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、日中でも無理なく休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情を入れていつでも確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で本人の力を活かした役割を持って頂き支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出することができていない。	事業所としての外出は外来受診のみで、今年度は全ての外出行事を自粛しています。利用者は広い敷地を散歩したり、畑の水遣り、テラスでの外気浴で気分転換を図っています。コロナ収束後には、利用者とのドライブなど、外出行事を計画しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身での管理が可能な方は現金を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されたり、家族から電話があった際に要望があれば話して頂く等支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節感のある飾り付けを行い、安心できるような工夫をしています。光の明暗や温度・湿度管理を心掛けています。	南向きの窓からの柔らかな陽射し、41帖のゆったりとした共用空間は、毎日始どの時間を過ごす利用者にとって快適で有る様に、温度・湿度・換気に配慮して清潔を保っています。食卓、椅子、ソファを配置し、それぞれが自分の居場所を確保できるようにしています。簡易ベットを用意して、看取り期間も皆と一緒の空間で過ごし、皆で見守る環境は、家庭的な安らぎを作り上げています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファやベンチを点在させてその時その時で一人ひとりが思い思いの場所で過ごせるような環境作りをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、要望に配慮した居室作りをして頂いています。	居室は8.5帖と広く、明るく清潔感があり、窓辺にカウンターやクローゼットを設置しています。転居による戸惑いを無くすために、馴染みの家具、炬燵、ベット、テレビ、仏壇など持ち込み、配置も動線に配慮しています。趣味のぬいぐるみや人形、家族写真など飾り、本人が心地よく休息できる環境づくりに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行動を制限しないように見守り、寄り添うことで安全性を保った環境作りに努めています。		